

太田フィルハーモニー交響楽団

第19回 定期演奏会

ota philharmonic orchestra

2016年12月11日(日)

開演14:00

笠懸野文化ホール・パル

主催：太田フィルハーモニー交響楽団

後援：太田市教育委員会

光ケーブルネット株式会社

【ご挨拶】

本日は、太田フィルハーモニー交響楽団の第19回定期演奏会にお越しいただき大変ありがとうございます。

今日の演奏会は指揮者に水戸博之先生をお迎えし、チャイコフスキー、ドビュッシーそしてメインにシベリウスの交響曲第1番をお聴きいただきます。シベリウスの交響曲第1番は、有名な交響曲第2番に次いで良く演奏される曲ですが、演奏面からはなかなかの難曲です。水戸先生の厳しくも優しいご指導のもとで練習を重ねて参りました。

ところで、水戸先生は、今年の9月から、なんとNHK交響楽団の首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィさんのアシスタントを務められています。お忙しい中、太田フィルのご指導をしていただき心から感謝しています。

太田フィルは、地域の皆様に支えられながら皆さんに音楽を気楽に楽しんで頂ける親しみやすいアマチュアオーケストラを目指しています。これからも変わらないご支援のほどよろしく願いいたします。

さて、そろそろ演奏者も舞台袖でワクワク、ドキドキしている頃です。どんな演奏になることやら…。どうぞ、今日もお楽しみください。

太田フィルハーモニー交響楽団 団長 大竹 実

【プロフィール】

指揮 水戸 博之



1988年北海道出身。東京音楽大学、及び同大学大学院作曲指揮科（指揮）を卒業。これまでに指揮を広上淳一、汐澤安彦、田代俊文、加納明洋、三河正典各氏に、ピアノを奥山優香、北島公彦、米田栄子、野田清隆各氏に、音楽理論を伊左治直氏に師事。

在学中、サントリーホール主催レインボウデビューコンサート21に出演。千葉県東総文化会館「東総の第九」にて東京音楽大学シンフォニーオーケストラを指揮。また、井上道義指揮者講習会にて優秀者に選抜され、入賞者によるリレーコンサートにてオーケストラアンサンブル金沢、金沢大学管弦楽団を指揮。

これまでに京都市交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、サンアゼリアフィルハーモニーカに客演。副指揮として日生劇場、藤原歌劇団のオペラ公演に参加。

また、東京混声合唱団とも共演を重ねており、これまでにNHK交響楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会に同合唱団の合唱指揮者として出演する他、文化庁主催の巡回公演を指揮する。

現在、オーケストラトリプティック常任指揮者、東京混声合唱団コンダクターインレジデンス、八王子ユース弦楽アンサンブル副指揮者。

また、2016年よりNHK交響楽団よりパーヴォ・ヤルヴィ氏のアシスタントに任命され、ヤルヴィ氏が指揮する同団の公演に携わる。

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
／歌劇「エフゲニー・オネーギン」よりポロネーズ

クロード・ドビュッシー作曲、アンリ・ビュッセル編曲／小組曲

<第1曲> 小舟にて En Bateau

<第2曲> 行列 Cortège

<第3曲> メヌエット Menuet

<第4曲> バレエ Ballet

ジャン・シベリウス／交響曲第1番 ホ短調 Op.39

<第1楽章> Andante, ma non troppo- Allegro energico

<第2楽章> Andante (ma non troppo lento)

<第3楽章> Scherzo. Allegro

<第4楽章> Finale (Quasi una Fantasia). Andante- Allegro molto

【曲目紹介】

チャイコフスキー／歌劇「エフゲニー・オネーギン」よりポロネーズ

チャイコフスキーは19世紀に活躍したロシアの作曲家で、「白鳥の湖」、「くるみ割り人形」、「ピアノ協奏曲第1番」など、ロマンティックな美しい旋律で、誰もが1度は聴いたことのある名曲を残しました。生涯で10曲のオペラを作曲し、その中で最も演奏回数が多く有名なものが「エフゲニー・オネーギン」です。この曲は、プーシキンが書いた同名の小説を題材としています。今回演奏するポロネーズは、第3幕でエフゲニーとタチアナが再開した舞踏会で使われる曲で、単独で演奏される機会も多い人気のある曲です。

(オペラのあらすじ)

主人公のエフゲニーが都会から田舎に引っ越し、そこで友人になったレンスキーから、婚約者エルガの家族を紹介される。エルガの姉タチアナはエフゲニーに恋心を抱くが、エフゲニーは「私は家庭生活に向かない」とタチアナの告白を断る。その後、エフゲニーは些細なことでレンスキーを殺してしまい、数年間外国で放浪生活をする。数年後、帰国したエフゲニーは、ある舞踏会で見違えるほど魅力的になったタチアナと再会する。彼女は將軍の妻となっていたが、エフゲニーはラブレターを書くなどして猛アタックする。タチアナは「なぜ今頃になってそんなことをするの？財産や名声が目的なの？私はすでに結婚している。」と拒絶する手紙を書く。二人は直接会うが、彼の想いは受け入れられず、ただ呆然と立ち尽くす。(文：高田)

ドビュッシー／小組曲

ドビュッシーは19～20世紀にかけてフランスで活躍した作曲家で、当時、既存の音楽理論が行き詰まりを見せていた西洋音楽に、新風を吹き込んだ重要な作曲家の一人です。

今回演奏する「小組曲」は28歳の時にピアノ4手連弾のために作曲したものを、友人のアンリ・ビュッセルが管弦楽編曲したものです。ピアノ版はそれほど評価が高くなかったようですが、ビュッセルの編曲により世間に知られるようになりました。曲調は、ドビュッシー前期の作品らしく比較的平易で親しみやすいメロディやハーモニーで構成されていますが、その中でも後の作風に重要な位置を占める教会旋法や全音音階の使用が見られ、印象主義音楽の萌芽が感じられます。曲は4つの小品から構成されています。

<第1曲 小舟にて En Bateau>

ハーブの分散和音の上で気ままに動くフルートのメロディが印象的な曲です。しばらくすると弦や木管が躍動的な動きを見せますが、再びフルートのメロディが回帰し、遠くに去るように曲を閉じます。

<第2曲 行列 Cortège>

フルートの可愛らしいメロディから始まり、この主題は様々な楽器に受け渡されながら次第に盛り上がっていきます。中間部は一転してシンコペーションと装飾音で構成されたメロディが現れます。再び最初の主題が現れ、クライマックスを迎えます。

<第3曲 メヌエット Menuet>

木管の序奏の後、弦が非常にシンプルなメヌエットのメロディが奏でます。このメロディは17世紀のフランス王朝をイメージしたものとされています。中間部は木管が活躍する見せ場があります。この曲のみコールアングレが使用されます。

<第4曲 バレエ Ballet>

非常に躍動的な踊りの曲です。中間部はワルツとなり、徐々に動きが穏やかになっていきます。再び冒頭の主題が戻った後、再度ワルツが戻り華々しく曲を締めくくります。(文：飯塚)

シベリウス／交響曲第1番

シベリウスはフィンランドの作曲家です。我が国には日本シベリウス協会があり、都内にはシベリウスを専門に演奏するオーケストラが存在し、実はシベリウス愛に溢れた方々が数多くいらっしゃるのです。

彼にとって交響曲は重要作曲分野だったようで、病気で死の影に怯えた後に書かれた第4番は美しくも物凄く暗く、第5番は自らの生誕50周年記念、最後の第7番では1楽章のみの交響曲という独自の境地に達しています。本日演奏する第1番は、まさに意欲作といった感じで、交響曲としては比較的珍しいハーブの使用や、同じ旋律をタイミングをずらして畳み掛けるフーガっぽい表現等、様々な試みを聞くことができます。フィンランドの伝説等を描写した『交響詩（音詩）』の分野でも多くの功績を残した彼ならではの、情景が浮かんでくるような表現が随所に見られることも特徴であると言えます。

<第1楽章>

謎めいたクラリネットの独白のあと風景が一変、遠くから旋律が押し寄せて集結する様は大自然の風景を思わせます。妖精の舞のようなハーブと木管の語り、霧がかかった弦に乗る管の寂しげな旋律、嵐のような描写とつづき、地の底をうごめく低音の上に不穏な旋律が奏でられたあと、曲は落ち着きを取り戻します。最後、曲は2発のピチカートで締められます。

<第2楽章>

寒々とした中にも暖かさを感じられるような優しい旋律で始まりますが、その旋律は先頭部分のみが激しくなって現れたり、暖かさの消えた状態で現れたり展開します。途中、静かに波打つ弦の上にホルンの旋律が乗る美しい場面を挟み、緩徐楽章とは思えないような疾走を経て冒頭の場面に戻って終わる、という展開の豊かな楽章です。

<第3楽章>

荒々しいピチカートと世にも珍しいティンパニの旋律から始まるリズムカルな楽章です。中間部はどこか牧歌的です。

<第4楽章>

1楽章冒頭と同じ旋律を弦で演奏しますが、程なく闘争のような曲想で進みます。合間に夢心地な美しい部分を挟んで、最後は闘争が緩やかなテンポになっていき、1楽章と同様に2発のピチカートで曲を締め括ります。(文：齋藤)

第19回定期演奏会 出演者

ヴァイオリン

◎ 會田 容子
 浅沼 郁子
 内田 郁子
 大野 仁子
 狩野 幸子
 小島 昭二
 佐藤 英臣
 ◎ 菅原 陽子
 多賀 春美
 津久井 尚美
 永山 友紀
 福永 司
 川井田 剛 (賛助)
 五位野 高史 (賛助)
 後藤 典子 (賛助)
 小林 実 (賛助)
 樋口 敏子 (賛助)
 藤井 順子 (賛助)
 松本 紘朗 (賛助)
 渡辺 僚子 (賛助)

ヴィオラ

♪ 饗庭 裕子
 田中 路男
 横塚 清恵
 稲葉 満 (賛助)
 齋藤 裕夫 (賛助)
 中屋 俊一 (賛助)
 松本 洋輔 (賛助)

チェロ

古作 眞佐子
 ♪ 齋藤 進午
 田代 ひとみ
 粒木 直美
 松浦 静子
 石黒 雄介 (賛助)
 佐藤 靖丈 (賛助)
 丸橋 有紀 (賛助)

コントラバス

♪ 内田 幸延
 島田 康平
 田代 克
 梅澤 見晴 (賛助)
 小林 正幸 (賛助)

フルート

小池 淳子
 ♪ 白石 真奈美
 山内 彰

オーボエ

関口 史子
 ♪ 福島 彩
 松浦 京子 (賛助)

クラリネット

桑原 淑江
 ♪ 高田 和久
 和田 智加子

ファゴット

飯塚 勇太
 ♪ 菅沼 香澄

ホルン

♪ 秋場 裕美子
 片山 智広
 古原 尚貴
 前原 陽子

トランペット

安藤 清輝
 遠藤 愛実
 ♪ 大竹 実
 武田 倅奈

トロンボーン

♪ 木村 彰徳
 丸山 明日香 (賛助)
 山上 有造 (賛助)

チューバ

キャロリン・ハワード(賛助)

パーカッション

内田 智子
 ♪ 大川 智
 武田 由美
 夏見 えみ (賛助)

ハープ

堀越 恭子 (賛助)

指揮

水戸 博之

◎ コンサートミストレス
 ♪ パートリーダー

許可されていない演奏中の録音・録画はお断り申し上げます

※過去の演奏会

年月日	演奏会	場所	指揮者	演奏曲目
2014.11.16	第17回定期演奏会	笠懸野文化ホール バル	直井 大輔	ベルリオーズ/序曲「ローマの謝肉祭」 ハイドン/交響曲第100番「軍隊」 チャイコフスキー/交響曲第5番
2015.5.17	2015ファミリーコンサート	太田市新田文化会館 エアリスホール	喜古 恵理香	よく耳にするクラシック特集～ワルツやアリアや交響詩～ ヴェルディ/歌劇「椿姫」より「乾杯の歌」 シベリウス/交響詩「フィンランディア」 ヨハン・シュトラウス2世/美しく青きドナウ オッフェンバック/喜歌劇「天国と地獄」序曲、他
2015.11.1	第18回定期演奏会	笠懸野文化ホール バル	水戸 博之	リスト/交響詩《前奏曲》(レ・プレリュード) フォーレ/管弦楽組曲《ベレアスとメリザンド》 ドヴォルザーク/交響曲第8番 ト長調
2016.5.15	2016ファミリーコンサート	太田市新田文化会館 エアリスホール	水戸 博之	世界の舞曲特集～ワルツやタンゴやバレエなど～ ハチャトリアン/組曲「仮面舞踏会」から「ワルツ」 アンダーソン/ブルー・タンゴ シュトラウス2世/喜歌劇「こうもり」から、他

次回演奏会のお知らせ

2017年ミニコンサート

日時：2017年2月26日(日)
 14時開演(予定)

場所：太田市 綿打行政センター

2017年ファミリーコンサート

日時：2017年9月17日(日)
 14時開演(予定)

場所：太田市新田文化会館
 エアリスホール

指揮：水戸博之

聞き馴染みのある曲をお届けします♪
 詳細はホームページをご覧ください。

団員(楽器経験者)大募集!!

太田フィルでは一緒に音楽を楽しむ仲間を募集しています。
 現在募集中のパートは、以下の通りです。

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、 コントラバス、トロンボーン

練習日：毎週金曜日 午後7時～10時

練習場所：葦川・休泊行政センター 他

申し込み：下記お問い合わせ先にご連絡下さい。

練習の見学大歓迎です!

団費2,000円/月、学生500円/月

♪練習の様子をブログで紹介しています。
 下記のホームページから入れるので、のぞいてみてください♪

お問い合わせ先

電話：090-5819-1453 (梅沢)

URL：<http://otaphil.symphonic-net.com/>

E-mail：fwhv3343@nifty.com